

学会ニュースNo.129 トピックス

- ・2021年度(第76回)総会・研究発表大会のご案内
- ・2021年度立正地理学会評議員会のお知らせ
- ・臨地研究会の開催を希望される方へ
- ・立正地理学会研究委員会の募集(新規)
- ・第118回臨地研究会(大阪府中央区)報告
- ・第49回講演会報告
- ・地理学教室だより
- ・第50回講演会報告
- ・会費納入のお願い

会 告

○ 2021 年度(第 76 回)総会・研究発表大会のご案内

2021 年度(第 76 回)総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします。

記

【2021 年度(第 76 回)総会】

1. 日時:2021 年 6 月 14 日(月)を予定。
2. 実施方法:
総会資料を一般会員には自宅に郵送したものを、学生会員は Microsoft Teams 上
にあげられたものをご確認ください。その後、一般会員は返信用葉書、学生会
員は Forms にて書面表決書を提出していただきます。
3. 回答期限:2021 年 6 月 30 日(総会日から2週間後程度を予定)

【2021 年度(第 75 回)研究発表大会】

1. 日時:2021 年 10 月 16 日(土)10:00~16:30
2. 会場:立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ
(コロナ禍の収束を見据え、対面での実施を予定していますが、情勢によりオンライ
ン同時双方向での実施に変更する場合があります。9月中旬を目安に実施方法を学会
ホームページ上でお知らせします)
3. 懇親会
情勢に基づき判断するため、現時点では未定です。

4. 研究発表

1) 申し込み

発表希望者は、2021年9月10日(金)までに集会委員会宛にメールでお申し込みください。お申し込みの際は、以下の枠内の内容をメールに記載して geosoc@ris.ac.jp まで送信してください。非会員の方が発表者になることはできません。

1. 発表者氏名
2. 所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
3. 発表題目
4. 発表形式(いずれかを選んでください):「口頭発表」もしくは「ポスター発表」
5. 連絡先(氏名、住所、電話番号、E-mail アドレス)

2) 形式

口頭発表とポスター発表があります。発表希望者にはいずれかを選択して申し込んでください。実施方法は今後、学会ホームページ上で公開します。なお、口頭発表は、例年、発表時間 15 分、質疑応答 5 分の計 20 分で行っています。また、ポスターのサイズは A0 縦(短辺 841 mm, 長辺 1189 mm) サイズまでです。

3) 要旨

発表者は要旨を必ず編集委員会にご提出ください。要旨は『地域研究』に掲載します。執筆要領は大会当日に編集委員会の受付で配付いたします。大会後、期日までにご提出ください。なお、発表要旨集は作成しません。

4) 配付資料

配付資料が必要な場合は、発表者が各自に必要な枚数を事前にご用意ください。配付資料のコピー・印刷等は受け付けておりません。なお、学内には有料のコピー機があります。

5. 地理写真

1) 申し込み

発表希望者は、2021年9月10日(金)までに集会委員会宛にメールでお申し込みください。お申し込みの際は、以下の枠内の内容をメールに記載して geosoc@ris.ac.jp まで送信してください。非会員の方が発表者になることはできません。
なお、地理写真は研究発表ではありません。

1. 氏名
2. 所属(共同の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
3. テーマ
4. 連絡先(氏名、住所、電話番号、E-mail アドレス)

2) 形式

地理写真の台紙サイズは、A1 縦(短辺 594 mm, 長辺 841 mm) サイズまでです。大会当日に所定の場所へ掲示し、大会終了後は各自でお持ち帰りください。写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。写真には内容・場所・撮影日時などのキャプションを付記願います。

6. 研究発表大会プログラム・会場案内について

次号学会ニュース(2021年5月中～下旬発送予定)、ならびに学会ホームページ(<https://www.rismap.website/>)に随時掲載いたします。

7. 展示について

例年、書籍販売などが行われていますが、2021年度は未定です。

8. やむを得ない理由によって開催が困難な場合の対応

地震や台風またはその他のやむを得ない理由によって大会の開催が困難な場合は、立正地理学会ホームページまたは立正大学地理学科ホームページ(<http://rissho-map.jp/>)でお知らせいたします。

○ 2021年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2021年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2021年6月4日(金)18:00より
2. 実施方法:オンライン同時双方向
3. 議題:
 1. 2020年度事業報告の件
 2. 2020年度決算報告の件
 3. 2021年度事業計画案の件
 4. 2021年度予算案の件
 5. その他(他に議題のある評議員の方は、集会委員会までお知らせ下さい。)

詳細については、次号学会ニュースにて評議員の方に同封するご案内をご覧ください。

○ 臨地研究会の開催を希望される方へ

2021年度に臨地研究会の開催を希望される方は、以下の要領で実施案を作成し、2021年4月21日(水)までに集会委員会までメール(geosoc@ris.ac.jp)にてご提出ください。合同委員会等で協議し実施の可否を決定いたします。

なお、臨地研究会は日曜日または祝日に開催してください。貸切バス利用の場合は学会から5万円、徒歩の場合は2万5千円が最大で補助されます。お申込み多数の場合、またはお申込みの内容によってはご希望に添えない場合もありますのでお含みおきください。

1. 趣旨
2. 日時:2021年○月○日(○)開始時刻～終了予定時刻
3. 集合場所:○○線「○○駅」改札口 ○○に集合
4. テーマ:「○○○」
5. 案内者:○氏名○、○氏名○、○氏名○
6. 参加費:○○円
7. コース:○○→○○→〈昼食〉→○○→○○解散
* 昼食は○○
8. 募集定員:○名
9. 参加を希望する会員が連絡するための氏名とE-mailアドレス

○ 立正地理学会研究委員会の募集(新規)

2021年度の研究委員会を募集します。希望者はホームページ上または立正地理学会ニュース No.112, No.113(立正地理学会ホームページ, 立正地理学会ニュースバックナンバー参照)に掲載された「立正地理学会研究委員会に関する内規」を熟読の上、内規 5 の内容を明記した申請書(立正地理学会ホームページに様式を掲載)を、副常任委員長宛に郵送(住所等は最終ページに記載)、またはメール(アドレス: geosoc@ris.ac.jp, 件名: 立正地理学会研究委員会応募)で提出して下さい。2021年4月16日(金)を締切日と致します。応募件数が多い場合は調整することがあります。

(副常任委員長 片柳 勉)

○ 第49回講演会報告

2019年11月30日(土)、大阪産業大学梅田サテライトキャンパスにて第49回講演会が開催された。今回の演者は大阪大学名誉教授の高山正樹氏で、演題は「大阪の地理的位置とその歴史的展開・地域的特性」で、水にちなんだ自然の特徴や地名、古代から現代に至る歴史的背景などの観点から大阪の成り立ちや発展についての講演であった。いかにして現在の「大阪」が形成されてきたのかというストーリーを学ぶことができ、また自然的な条件が都市の発展に重要であることを再認識することができた。

当日の講演は、立正地理学会2019年度秋季例会シンポジウムの基調講演であり、この話題提供をもとに各発表者の大阪に関する研究の報告がなされた。講演後には参加者から多くの質問があり、実りある講演会であった。参加者にとって収穫の多い講演をしてくださった高山先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

(岩谷恭弥会員)

○ 第50回講演会報告

2021年1月26日(火)、Zoomを使用したオンライン講義にて第50回講演会が開催された。演者は立正地理学会前会長、立正大学地球環境科学部地理学科教授の松井秀郎氏で、演題は「地域研究について」であった。講演内容は、「立正の地理」の伝統に重きをおいた、「地域」を重要視する地理学や地域研究の姿勢についてであった。

当日の講演は、今年度をもって退官される松井先生の最終講義であり、立正大学地球環境科学部地理学科教員として長年に渡り奉職されてきた松井先生的意思を、我々後進はもとより、多くの学生にも「立正地理」の伝統が受け継がれたと感じた。講演後には学生からの質問もあり、盛会であった。田中啓爾先生からの流れをくむ松井先生の貴重な講演をしてくださった松井先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

(岩谷恭弥会員)

○ 第 118 回臨地研究会(大阪府中央区)報告

2019年12月1日(日)、吉本勇会員、原美登里会員、石原肇会員の案内により、大阪マラソン開催のなか、第118回臨地研究会が大阪市北区・中央区・天王寺区を中心に行われた。テーマは「大阪の魅力・再発見」、参加者は22名であった。

当日は、御堂筋線心斎橋駅の南口に集合し、御堂筋や道頓堀、黒門市場、新世界を巡った。これらは今や大阪を代表する観光地となり、外国人観光客が多かった。そのため、彼ら向けの商品を扱う店舗も複数確認できた。特に黒門市場では、アジア系の外国人が多く、食べ歩きに興じている様子がみられた。多くの店舗では、比較的高価なものも数多く販売されており、これらは外国人観光客向けの商品であると説明された。

大阪の歴史や文化に触れることができる地点も廻った。たとえば、千日前はかつて刑場であったが、明治維新以降に再開発され、現在では映画館や劇場が数多く建設されている。飛田新地はかつてからの遊郭街であり、古くからの趣を感じる建物が数多く立ち並ぶ。なかでも嘆きの壁は、阿倍野地区との境界となっており、新旧の建築物のコントラストに目を見張った。高層マンション等が立ち並ぶ阿倍野地区は、近鉄が主体となって再開発を行った地域である。あべのハルカスは、日本一の高さを誇るビルであり、展望エリアからは大阪市内のみならず、神戸・淡路島まで一望することができた。その後、梅田貨物駅跡の再開発事業について、その跡地に建設されたグランドフロント大阪の屋上庭園で説明を受けた。

今回の臨地研究会では、「一大都市としての成立」から「食い倒れ」まで、様々な魅力に着目することで大阪を「再発見」することができた。詳細な資料を準備いただき、ご案内頂いた3名の会員には厚く御礼を申し上げます。



第118回臨地研究会の様子(岩谷恭弥会員撮影)

(佐藤寛輝会員・小林知寛会員)

☆ 地理学教室だより ☆

◇ 2020 年度卒業研究発表大会報告

第 16 回立正大学卒業研究発表大会が 2021 年 2 月 11～18 日にオンデマンド(動画)形式で実施されました。今回の大会では、口頭発表 10 名、ポスター発表 41 名の方が発表を行いました。本号の学会ニュースでは、2020 年度日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会で発表した 2 件と、ポスター賞を受賞した 2 件の研究発表の一部について学生広報委員による取材レポートをもとに紹介します。

<口頭発表>

小林知寛 『埼玉県東松山市東平地区における梨を活用した

観光農業の取り組みと課題』

東松山市東平地区は観光梨園が多く立地する地域です。小林さんは、この地における観光農業の現状を把握するとともに、観光農業の存続・発展における課題を明らかにしました。観光農園での聞き取り調査を実施し、得られたデータをもとに 7 か所の観光農園を類型化しました。継続的な商品の注文や、加工品開発・PR を通じた販路の拡大などが今後の観光梨園の存続・発展に寄与する影響は大きいと述べられ、今後の課題として後継者が不在である伝統的観光農園の去就や、新規観光農園の動向などを継続して明らかにしていく必要があるとまとめられていました。

(広報委員 青木基寛)

石田彩貴 『熊谷市南東部荒川右岸における水屋・水塚の分布と利用状況』

近年、多様な治水対策が講じられる一方で、水屋や水塚を用いた伝統的な水害対策は減少しつつあります。このような伝統的な水防施設は、関東地域では荒川や利根川流域の低地に多く、熊谷市内を流れる荒川の右岸地域にも残されています。石田さんは、熊谷市内でも江戸時代に行われた背替えの影響で水害リスクが高く、荒川と和田吉野川に挟まれた大里輪中地域において、水屋・水塚の高さと現在の利用状況に着目しました。その結果、調査対象とした水屋・水塚はすべてが自然堤防上に位置しており、そのほとんどが倉庫として利用されていることを明らかにしました。中には、過去の水害で痛んだものもあり、所有者の多くが保存に後向きであることも指摘しています。

(広報委員 山岸美穂)

<ポスター発表>

黛 大樹 『2019 年台風 19 号による都幾川中流における破堤と

地形・土地利用条件の関係』

黛さんは 2019 年台風 19 号による都幾川の破堤原因を、地形・土地条件の関係から検討しました。ArcGIS 等を使用し、地形・土地条件の調査や堤防被害の地図化を行うとともに、現地調査により 5mDEM では表現されない微地形を明らかにしました。その結果、破堤原因は越水によるものが主要因であり、破堤箇所が川幅の狭窄部であったことが重要な要因であると明らかにしました。また、破堤リスクに関する考察も行い、土地の履歴や地質的な要素との検討を行うことが必要であると述べています。

(広報委員 小形旬平)

出浦由佳『東京都世田谷区下北沢におけるライブハウスの立地特性』

世田谷区下北沢には“若者の街”として一世を風靡した過去があります。これは、古くからの学生下宿街であったことに由来し、その地域的基盤の上に若者文化が広まりやすい環境があったことが形成要因一つの特徴として捉え、この立地特性を明らかにしました。また、ライブハウスと地域の関係を明らかにし、当該地域に若者の音楽文化が定着する過程を読み解きました。昨今の情勢を踏まえた音楽文化のあり方を今後の課題とし、街の変化についても継続的に明らかにしていく必要があると結論付けています。

(広報委員 岩谷恭弥)

◇ 新任の先生よりご挨拶

立正大学地理学科では 2020 年度から 1 名の新しい先生をお迎えいたしました。今回の地理学教室だよりでは、新しく着任された金延景先生からのご挨拶を掲載いたします。

○金延景先生

2020 年 4 月より、地理学科の助教に着任いたしました金延景(キムヨンギョン)です。韓国ソウル出身で、学部は高麗大学校(Korea University)で地理教育を専攻しながら、交換留学生として早稲田大学教育学部で1年間学びました。その後、大学院は筑波大学の地理学教室に進学し、2018年9月に博士(理学)を取得いたしました。

専門分野は、都市・社会地理学であり、移民・エスニシティ研究に取り組んでいます。特に、外国人労働者、移民起業家、高度外国人材など、国際人口移動を伴うエスニック集団の経済活動により都市内に発現されるそのエスニシティの空間的事象に注目しながら、エスニック集団の適応戦略やホスト社会との共生の実態に関心を持ってきました。今後は、東アジア圏域を中心に、トランスナショナルに広がる移民の社会ネットワークと、特定の域内を流動する人々の就業地選択の要因を探ってまいります。よろしくお願いいたします。



○ 会費納入のお願い

2020 年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、ご納入下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

※今年度をもって退会を希望される方は、3 月末日までにご連絡下さい。ご連絡がない場合は、自動的に次年度継続として、会費の請求を行わせて頂きます。

(庶務会計委員会)

編集後記

少しずつ暖かい日が多くなり、春の訪れを感じる頃になりました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、友人や先生方となかなか会えない苦しい 1 年でした。感染拡大も落ち着き、一部で対面授業が再開されるなど、少しずつ普段の生活に戻りつつある中、後輩が楽しい学生生活を送れるよう祈念いたします。

(広報委員 山岸美穂)

立正地理学会ニュース No.129

2020年3月26日発行 編集者 立正地理学会広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453